

になつた。

するよ 玩具メーカーのバンダ  
前にも イが一九九九年に発売以  
「ああ 昨秋には累計出荷が  
百鉄ホ 百万体を突破したプリモ  
と、配 プエル。体内センサーに  
夫婦を よって、二百八十種以上  
役を演 の言葉を使い分ける。バ  
た。 ンダイも驚いたのは「若  
向かっ い女性向けに開発したの  
塊代家 に、実際の購入の主流は  
「女」と 子育てを終えたような中  
扱てき 高年女性層」。「一人暮らし  
の会話相手」「この子

# 家族が求める新たな絆

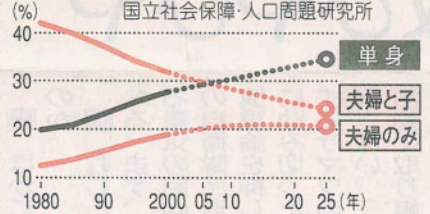


かんかん森のコモンミール。当番がつくった夕食を年齢もさまざまな入居者たちが味わう—東京都荒川区で

(プリモプエル)を一人にするのは「かわいそう」と愛好者ら。「七五三」や「旅行」行事も行われ、宣伝文句の「新しい家族」が誇張でない。女性ばかりではない。経済アナリスト森永卓郎さん(四七)は、おたく系男性の間でのフィギュア(アニメの登場人物の美少女などの人形)の人気ぶりに「将来大半の日本人はロボットをパートナーにする」と予言する。日本の家族はどんどん

## 世帯の構成別割合の推移

国立社会保障・人口問題研究所



小さくなってきている。国の推計によると、二〇〇七年には「単身世帯」の割合が全世帯の三割を占め、「夫婦と子の世帯」を上回る。未婚者や独居老人の世帯が増えているため、「夫婦と子供二人」を「標準家族」としてきたモデルの崩壊だ。「核家族」どころか「個

族」化が急速に進んでいる。

新しい絆を結ぶ挑戦も始まっている。

東京の下町・荒川区の一角、名称は「かんかん森」。ビルの二、三階に二十八戸が並び、一見、普通の賃貸マンション。家賃も周辺と大差ない。

その実、多世代の世帯が一部の家事や空間を共同化して助け合う北欧風居住形式「コレクティブハウス」の先駆けだ。ある夕方。男女四人の食事当番が二十人分のラザニアづくりに励んでいる。共同家事の一つ、週三回の「コモンミール」(共同食事)だ。

入居者は零七十九歳。最年少は昨夏、彦坂早苗さん(三三)が自宅出産した二男大地ちゃん。最高齢はアルツハイマー病の女性。同居の会社員の

## 家族の行方

娘(五三)は「帰宅は遅い江さん(六六)は「少子高齢化に、皆に母を見守ってもらえるので心強い」。一人を尊重する暮らし方。家四人でラザニアを味わった彦坂さんは「コモンミールのおかげで、家事負担が軽くなる」。民間非営利団体(NP O)「コレクティブハウジング社」が〇三年から運営。同NPOの坂元良の

人口減少社会を生き抜くための提案を募ります。住所、氏名、職業、年齢を記し、ファクス(0120)0515605かメール2005@chunichi.co.jpに。匿名希望はその旨を記してください。後日、紙面で紹介します。